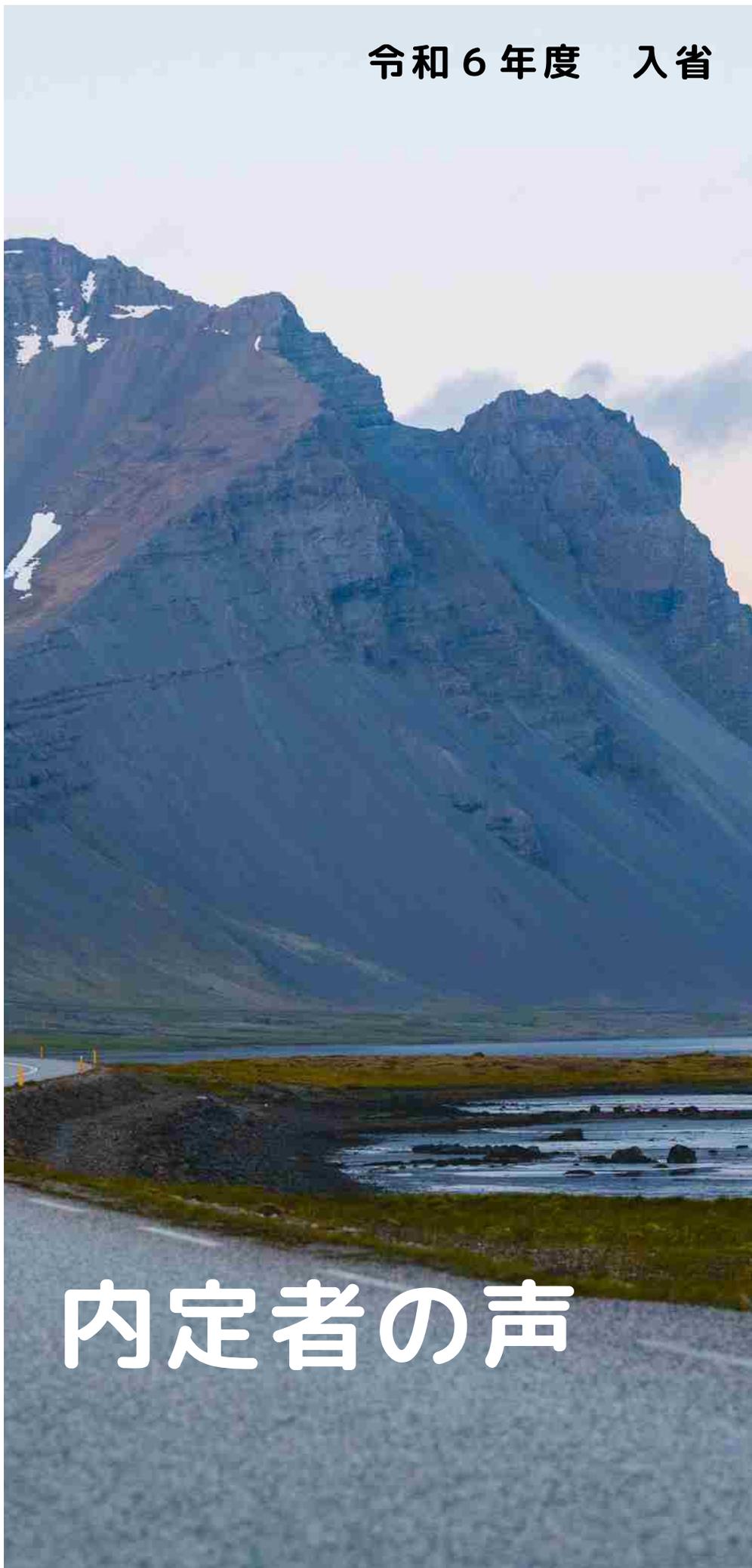




MINISTRY OF THE ENVIRONMENT

令和6年度 入省



内定者の声



CONTENTS

PAGE 1

内定者統計

PAGE 19

試験対策

PAGE 42

座談会

PAGE 6

内定者紹介

PAGE 30

官庁訪問

PAGE 54

メッセージ

内定者統計

Statistics of New Employees

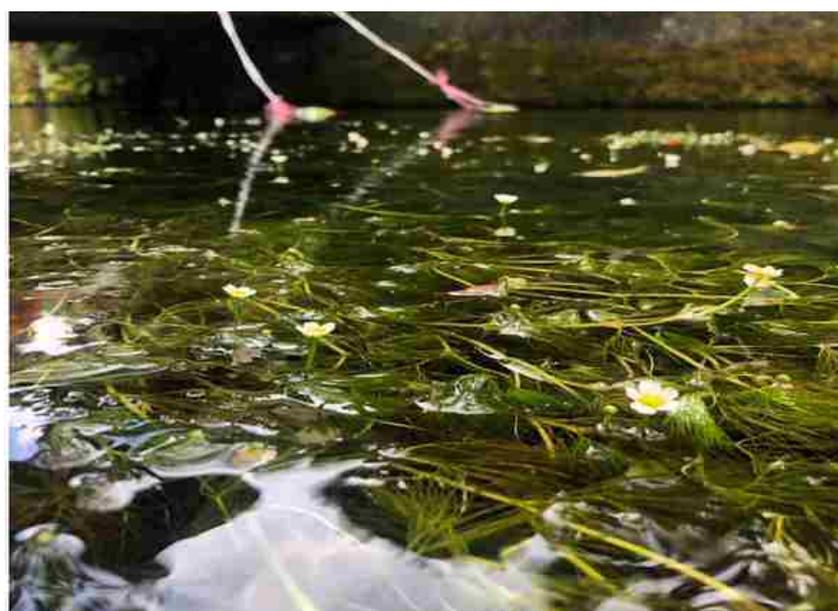
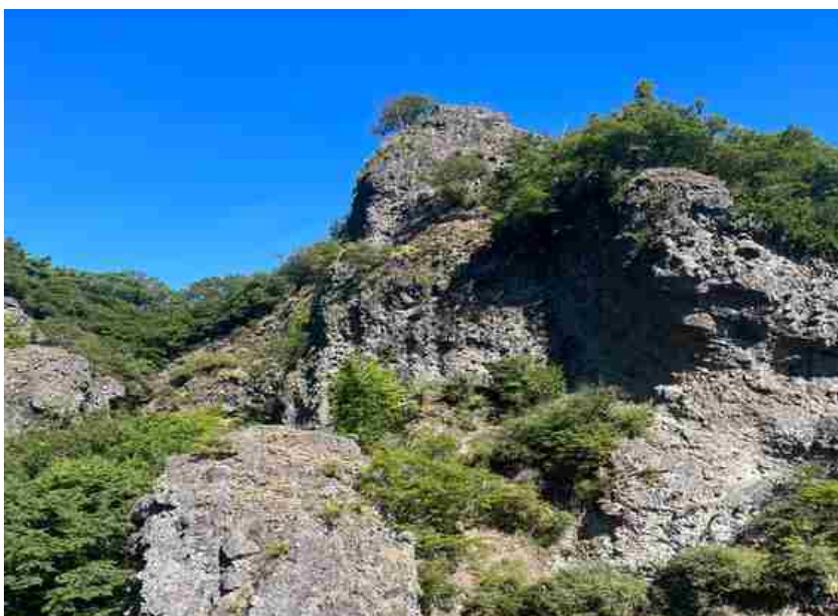


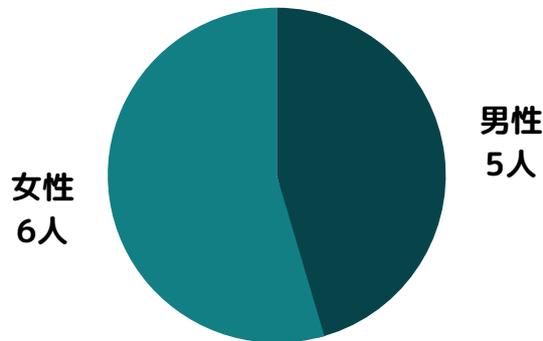
写真 上 瀬戸内海国立公園寒霞溪(香川)
中 瀬戸内海国立公園寒霞溪(香川)
下 醒ヶ井の梅花藻(滋賀)

基本情報

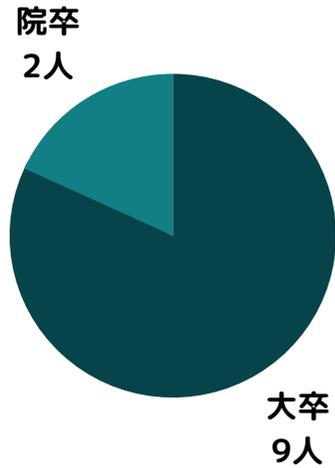
出身地

千葉県…3人	埼玉県…1人
大阪府…1人	東京都…3人
富山県…1人	愛媛県…1人
茨城県…1人	

男女比

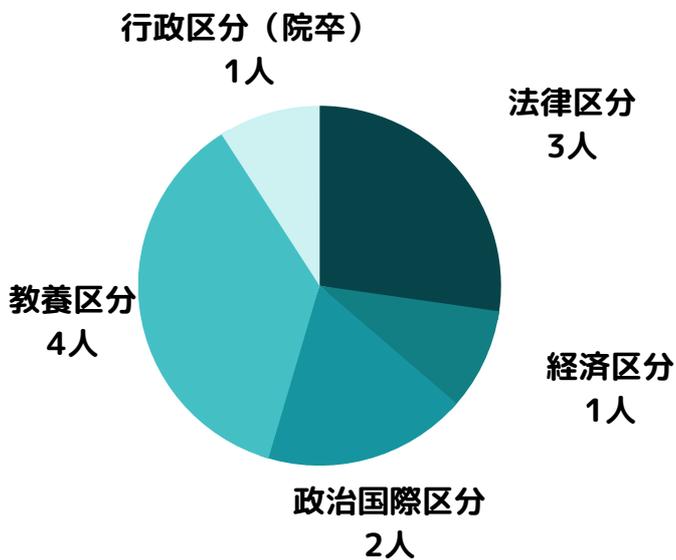


最終学歴

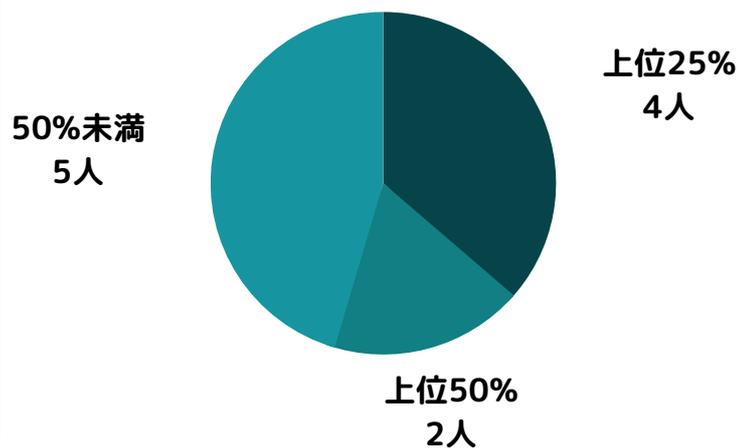


公務員試験①

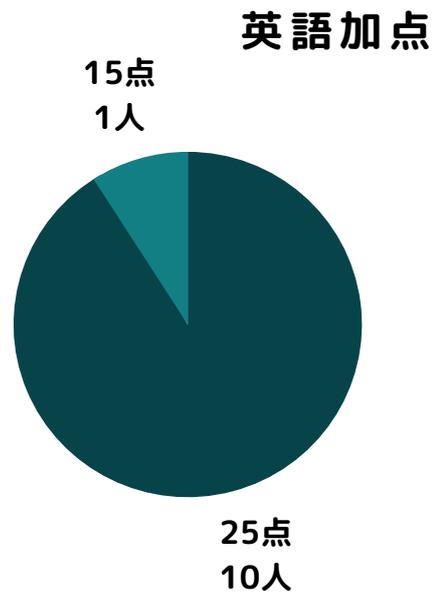
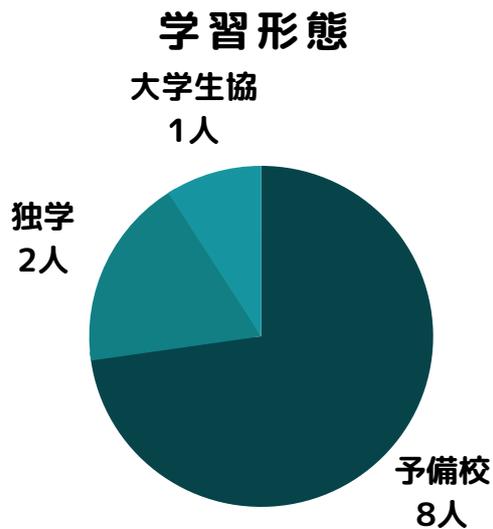
試験区分



席次

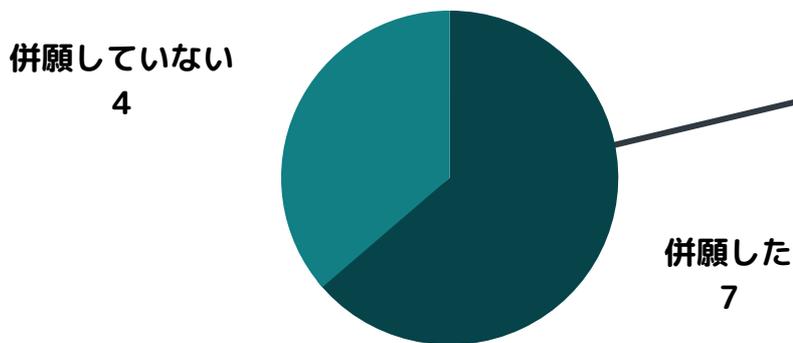


公務員試験②



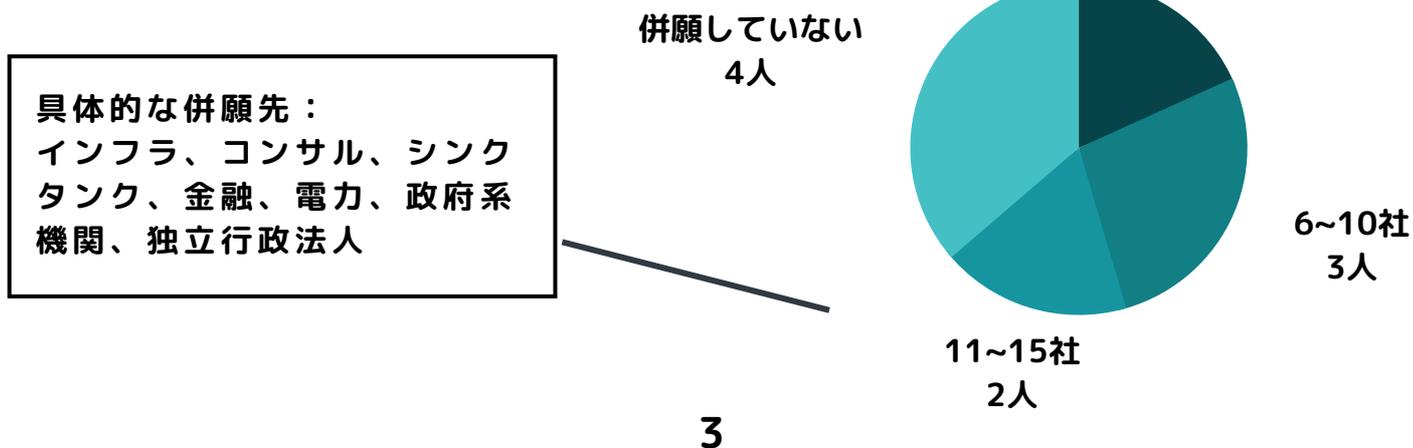
併願状況

公務員試験との併願状況



具体的な併願先：
一般職、外務省専門職、防衛省専門職、県庁、都庁、府庁、特別区、裁判所、労基、裁判所事務官、国税専門官

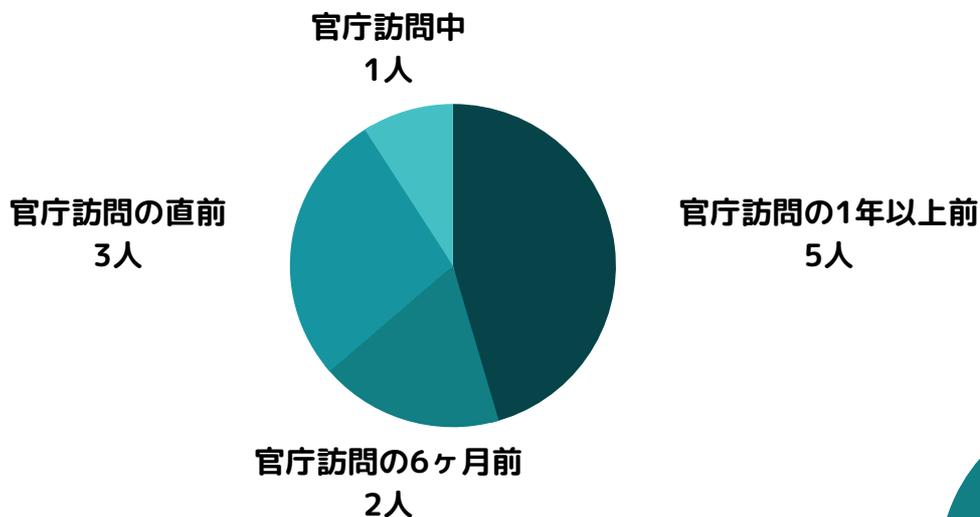
民間企業との併願状況



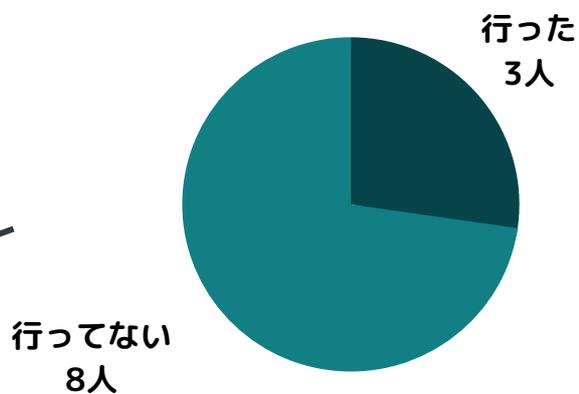
具体的な併願先：
インフラ、コンサル、シンクタンク、金融、電力、政府系機関、独立行政法人

官庁訪問対策

環境省を志望した時期



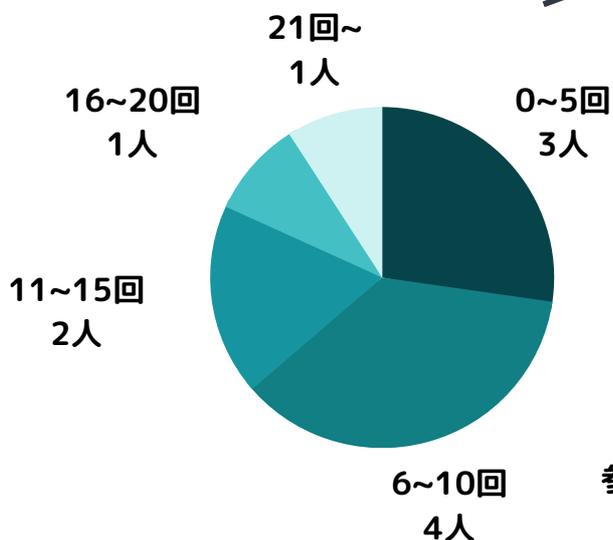
職員訪問



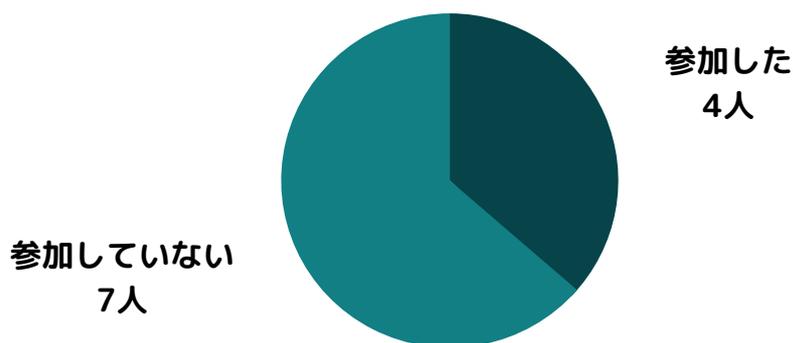
職場訪問やOB・OG訪問はオンラインでも可能なので、興味がある方は環境省HPの採用情報から確認してみてください！

中にはグループで政策立案を体験できる説明会もあります。筆者はとても良い経験ができたので、参加をおすすめします！

説明会参加回数

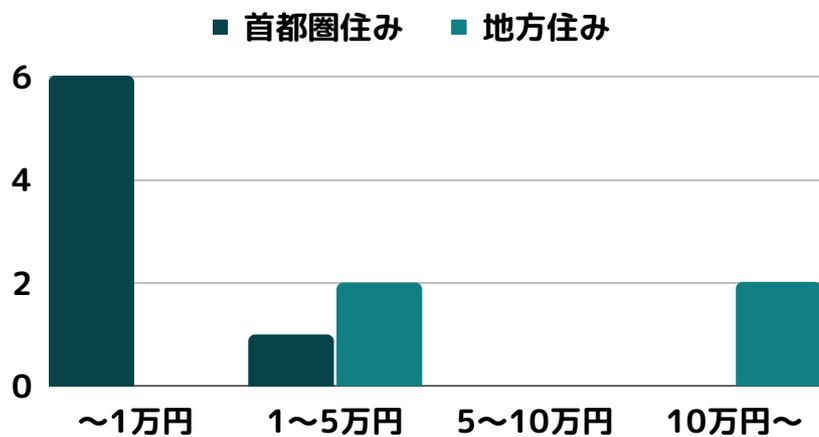


環境省インターンシップ

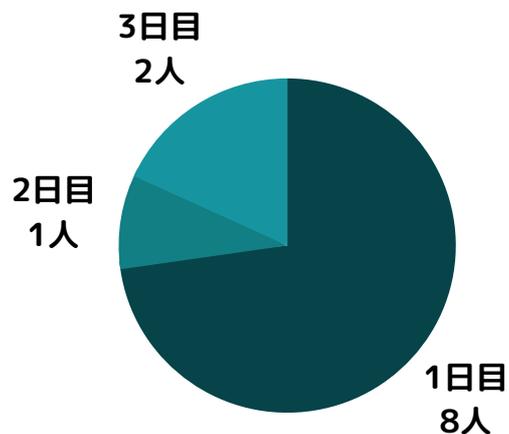


官庁訪問

官庁訪問にかかった費用



環境省訪問日



内定者別訪問省庁

1日目	環境省	環境省	環境省	環境省	環境省	環境省
2日目	経産省	経産省	経産省	農水省	農水省	
3日目	国交省	農水省	法務省	経産省		農水省

1日目	環境省	環境省	農水省	外務省	厚労省
2日目			環境省	防衛省	農水省
3日目	公取委		国交省	環境省	環境省

内定者紹介

Introduction

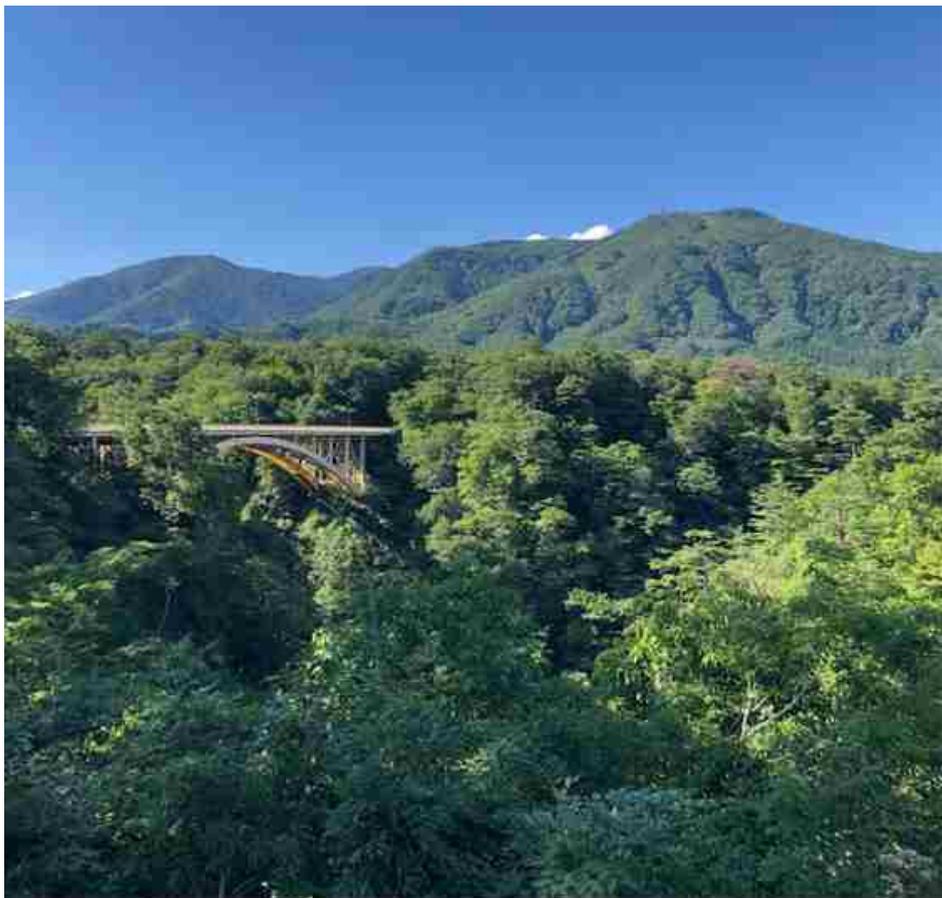


写真 上 宮城県 鳴子峡
下 山形県宝珠山立石寺（山寺）



神戸大学 法学部
やぎ座

出身地	富山県
趣味	美術館巡り、アニメ鑑賞
就活の軸	①環境問題に携わることができる、②影響力の大きさ

試験区分・勉強法

試験区分：大卒 政治・国際
勉強法：予備校

官庁訪問の訪問先

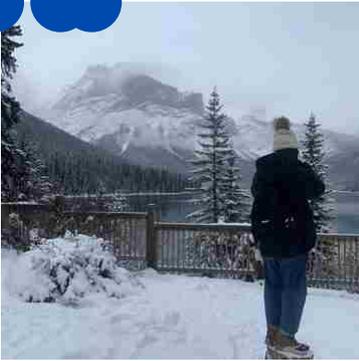
- 1日目 環境省
- 2日目 農林水産省
- 3日目 経済産業省

志望動機

中学生のとき、授業で地球温暖化をテーマとする映画を観て、現在進行形で自然が失われつつあることに対し強い危機感を覚えました。そして、自然破壊をはじめとする環境問題の解決に取り組み、豊かな自然環境を将来世代へ継承するために尽力したいと考えるようになりました。そこでどのようにして環境問題解決に携わることができるかを考えるため、職業選択や環境に関する本を手取る中で、公務員に興味を持ちました。公務員は政策を通じて様々な分野の環境問題に携わることができ、また公務員の中でも国家公務員は、国民の行動変容から各国政府との協力まで業務の幅が広いということを知りました。こうした国家公務員の特徴が、いろんなことに興味を持つ私の性格に合っていると感じました。

関心のある政策分野

地球温暖化対策関連



大阪大学 人間科学部
みずがめ座

出身地	埼玉県
趣味	海外ドラマ・旅行
就活の軸	国際協力に関わるキャリアが築けるか

試験区分・勉強法

試験区分：大卒 教養
勉強法：その他

官庁訪問の訪問先

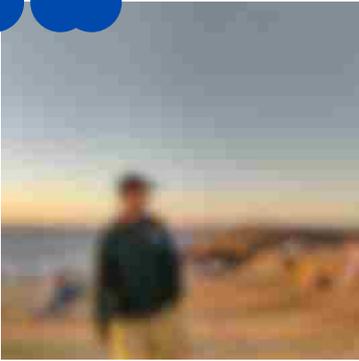
- 1日目 外務省
- 2日目 防衛省
- 3日目 環境省

志望動機

いろいろな角度から環境問題や社会課題に取り組めると思ったからです。国際的な情勢と向き合いながら、地方の現場に寄り添える幅広さに惹かれました。

関心のある政策分野

国際協力



東京外国語大学 言語文化学部

うお座

出身地	千葉県
趣味	釣り、古着屋巡り、横丁巡り
就活の軸	グローバルなアプローチから日本に貢献したい

試験区分・勉強法

試験区分：大卒 政治国際
勉強法：予備校

官庁訪問の訪問先

- 1日目 環境省
- 2日目 経済産業省
- 3日目 法務省

志望動機

幼少期から自然に触れ、日本の環境の素晴らしさを体感した経験から、この自然環境を保全・維持し、次世代へ引き継ぐことで日本の持続可能な発展に貢献したいという強い思いから環境省を志望する。とりわけ海で多くの時間を費やしてきた私は、海洋プラスチック問題に興味関心があると同時に、海洋問題が地球規模の課題であると認識される現代において、もはや1国のみによる解決は困難であり、国際社会全体の取り組みを強化するべきであるという危機意識を持っている。私は日本が国際的な取り組みを主導しつつ、途上国援助を行うことで世界各国が協調してこの問題に取り組むことが出来るような包括的な国際体制構築の為に、政策を立案する当事者として関わりたいと考える。留学経験や途上国であるベトナム地域研究の経験から、国際的な視点と途上国の意向を踏まえた視点を織り交ぜ、各国とコミュニケーションを取ることで、海洋プラスチック問題に対する地球規模の取り組みを推進し、日本の環境保全に繋げていきたい。

関心のある政策分野

気候変動、
海洋プラスチック、
国際的な取り組み全般



千葉大学 法政経学部
おひつじ座

出身地	千葉県
趣味	クラシックギターを弾くこと、ドラマ・映画を見ること
就活の軸	環境政策、防災・減災

試験区分・勉強法

試験区分：大卒 法律
勉強法：大学生協の公務員講座

官庁訪問の訪問先

1日目 環境省
2日目 経済産業省
3日目 国土交通省

志望動機

環境ボランティア活動を取りまとめた経験や自然災害の激甚化に対する危機意識から、持続可能な脱炭素社会を構築することで将来世代も安心して暮らせる環境を実現したいと考えるようになりました。とりわけ、地域を主体とした脱炭素化を進めることで、単に温室効果ガスの排出を抑制するだけでなく、地域経済の活性化を図りながら環境問題を解決することができると思いました。また、東日本大震災や令和元年台風第19号の被害を目の当たりにして、現場の実情に沿った環境再生の重要性を認識しました。しかし、こうした社会を実現するためには、資金や科学的知見、関係者の理解など様々な障壁があると考えます。だからこそ、時代の要請への対応と不変の原点の追求という両軸から政策アプローチをとることができる環境省に魅力を感じ志望しました。

関心のある政策分野

地域脱炭素、環境再生



横浜国立大学 経営学部

おうし座

出身地	東京都
趣味	サウナ、ラジオ、筋トレ
就活の軸	自分が熱意を持てるかどうか

試験区分・勉強法

試験区分：大卒 法律
勉強法：予備校

官庁訪問の訪問先

1日目 農林水産省
2日目 環境省
3日目 国土交通省

志望動機

私は東日本大震災の被災地を生で見たことを契機に、大好きなこの国を様々な観点から成長させ、守り、大きくしたい、そして一人でも多くの方が幸せに暮らすことのできる国を作りたいと思い、国家公務員を志望しました。また、この国の未来を具体的に考える中で、どの活動においても環境保護が土台になっていることに気づき、行政官としてこの土台作りを推し進め、そのことを通じて多くの方が幸せに暮らせる環境を作り続けたいという思いから、環境省を志望しました。

関心のある政策分野

震災復興 原子力規制



慶應義塾大学 法学部

ふたご座

出身地	茨城県
趣味	小説・漫画、吹奏楽
就活の軸	将来世代のために貢献することができる よりよい社会を繋げていくことに貢献できる

試験区分・勉強法

試験区分：大卒 教養
勉強法：予備校

官庁訪問の訪問先

1日目 厚生労働省
2日目 農林水産省
3日目 環境省

志望動機

中高での学習や報道などの内容から、現状の社会は将来世代に負担を後回しにしてしまっていると問題意識を感じており、将来世代のために、将来に負担を後回しにしない社会を作り繋げていきたいと思っていました。その上で、具体的なかかわり方として、環境という幅広い概念を通して幅広い分野に関わりながら、将来世代の声なき声を聞くことのできる環境分野に面白さを感じ、環境を通して将来世代に貢献することができる環境省を志望しました。

関心のある政策分野

気候変動対策
循環型社会、地方脱炭素



東京大学 法学部
かに座

出身地	千葉県
趣味	音楽鑑賞、読書、水族館めぐり
就活の軸	社会貢献性の高さ

試験区分・勉強法

試験区分：大卒 教養
勉強法：独学

官庁訪問の訪問先

1日目 環境省
2日目 農林水産省
3日目 なし

志望動機

私は自らの労働を通して人々の生活を豊かにしたいと考えています。そして千葉県で海や川に囲まれて育った経験から、自然やそこに棲む生物に興味を持つようになり、環境という観点から社会貢献したいと思いました。なかでも環境省を志望した理由は2つあります。1つ目は法律によるルールメイキングができるからです。環境問題を解決するためには社会の枠組み、すなわちルールを変えることが不可欠だと思います。2つ目は地域の問題から国際的な問題までを扱えるからです。環境問題は行政的な境界にとらわれない問題であるため、地域と国際の両方に関われる点に惹かれました。

関心のある政策分野

生物多様性保全
海洋プラスチック汚染対策



東京大学大学院 公共政策学教育部

おとめ座

出身地	東京都
趣味	ジョギング、映画鑑賞
就活の軸	広く社会の役に立てること

試験区分・勉強法

試験区分：大卒 経済
勉強法：独学

官庁訪問の訪問先

1日目 環境省
2日目 なし
3日目 公正取引委員会

志望動機

カーボンニュートラルやネイチャーポジティブなどが世間の耳目を集める中、次世代のために、環境を軸として貢献していきたいと考えたからです。

関心のある政策分野

環境経済、生物多様性



関西大学 文学部
てんびん座

作者 竹村京 国立国際美術館
特別展「ホーム・スイート・ホーム」

出身地	大阪府
趣味	美術館巡り、ドラマ・映画鑑賞 海外映画を中心にしています。特にミステリーや命がけのゲームを扱っている物語が好きです。
就活の軸	公務員として働きたい 多くの事業と関わることができる公務員の仕事に興味があり公務員を目指しました。公務員専願でした。

試験区分・勉強法

試験区分：法律
勉強法：予備校

官庁訪問の訪問先

1日目 環境省
2日目 なし
3日目 なし

志望動機

大学でSDGsについて学ぶことが多く、環境に対して関わることができる場所で働きたいと思いました。公務員の中でも地球規模での環境対策に挑める環境省に魅力を感じました。

関心のある政策分野

日本は、各地の気候や風土が様々であり、地域の環境に合わせた脱炭素社会の実現を目指すうえでは地域脱炭素に関する政策について興味があります。地方出身ということもあり、地方の活性化にもつながる政策を実行していきたいです。



慶應義塾大学 経済学部

さそり座

出身地	東京都
趣味	生物観察旅行、料理
就活の軸	環境保全に関わることができる仕事

試験区分・勉強法

試験区分：大卒 教養
勉強法：予備校

官庁訪問の訪問先

1日目 環境省
2日目 なし
3日目 農林水産省

志望動機

幼い頃から東京と地方（よく岩手の祖母の家に行っていました）の自然の違いなどを実感しながら育ってきたため、環境保全に関わることができる仕事がしたいと思い志望しました。文系卒で環境系のできる仕事は限られていますが、その中でも環境への関わり方やキャリアを考えて環境省の総合職を目指しました。

関心のある政策分野

生物多様性保全、
カーボンプライシング



京都大学大学院 地球環境学舎

いて座

出身地	愛媛県
趣味	ピアノ・一人旅
就活の軸	「弱い立場の人や自然を守る」× 政策

試験区分・勉強法

試験区分：院卒 行政
勉強法：予備校

官庁訪問の訪問先

1日目 環境省
2日目 経済産業省
3日目 農林水産省

志望動機

環境問題の解決のために働き、弱い立場の人や自然を守りたい。小学生のころから環境問題に関心があり、自分も解決に関わりたいと思っていた。国家公務員になりたいと思ったのは、大学で気候変動について学ぶ中で、政策という手段の影響力を知ったため、また、社会全体の旗振り役と各主体の支援を担える行政の役割に魅力を感じたためである。貴省の不断の使命と攻めの戦略というミッションも、私の実現したい夢に合致している。入省できた暁には、例えば、所有資源の少ない中小企業や自治体が、先駆的な脱炭素施策をすることで得をするようなしくみを定着させたい。

関心のある政策分野

気候変動、公害

試験対策

Test Preparation



写真 上 比叡山 ロープウェイ(京都府)
中 曾木の滝(鹿児島県伊佐市)
下 奥裾花の奇岩地帯(長野県長野市)

教養区分

勉強を始めた時期・形態

- 1か月前 予備校
- 3か月前 独学
- 3ヶ月前～半年前 予備校

一次試験（基礎能力＋総合論文）

- 問題集でコツコツ勉強するほかに、歴史はYouTubeやドラマでも勉強した（独学）
- 9月から初めて、短期間で成績を上げるためにI部（知能分野）に重点を置いた。I部は解き直しと解答時間の短縮に力を入れ、II部は過去問で対策した。総合論文は特に対策せず、小論文の基本的なマナーを意識して臨んだ。
- 予備校の講義動画をひたすら見て勉強した。試験一か月前に勉強を始めたので捨てる科目を決めた上で、捨てる科目の動画を倍速で見続けた。過去問はまったくやらなかったが、なんとかあった。

二次試験（政策課題討議＋企画提案＋人事院面接）

政策課題討議

- 他の受験者と模擬形式で練習して、本番の流れやコツをつかんだ。練習では定番の型を作り、それにはめて討議を進めることを意識することで、本番でも焦らず力を発揮できた。

企画提案

- 事前に白書や資料が提示された上で、当日はそれに関連する政策課題が出題され、その解決策を試験官に提示する試験。事前資料の読み込みをしたうえで、関連する政策や国内外での取組を調べた。出題される課題を予想した上で、練習としてプレゼンを作成し、大学の先輩や他の受験生にフィードバックを貰いブラッシュアップした。事前準備と会話への慣れが大事。

人事院面接

- 事前に作成した面接カードの中から面接で聞かれそうな項目を予想し、回答を用意した。
- 他の受験生や先輩と事前に練習することで、面接へ慣れておいた。
- 志望動機を書く際には志望省庁への思いは伝えつつも国家公務員としてのより全般的な志望動機も盛り込むことを意識した。

法律区分

勉強を始めた時期・形態

- 半年～1年前 大学生協
- 半年～1年前 予備校
- 1年前～2年前 予備校

一次試験（専門択一）

- 公務員講座で配布された教科書を繰り返し読んで、問題集を2～3周解くようにしていました。また、直前期は、過去問や模試で間違えた分野をもう一度復習して同じ間違いをしないように心がけて勉強しました。ミクロ経済やマクロ経済は、パターンをつかめるまで問題集を繰り返し解きました。
- 国家一般職と併願していたので総合職の過去問を解く程度の対策をしていました。一週間前から総合職で出題される科目のみを対策していました。
- とにかく予備校の過去問集を回しました。また、間違えた問題や新出の知識に関しては一つのノートにまとめて、定期的に復習をしていました。

二次試験（専門記述）

科目選択

- [憲法、民法、行政法] 大学生協の公務員講座で記述対策がありました。
- [憲法、行政法、公共政策] 都庁の試験で憲法、行政法を使ったのでその流れで使いました。公共政策を選んだのは、他に対策しているものがなく、本番でなんとか書けるものが公共政策でした。
- [憲法、民法、行政法] 予備校の記述ゼミを取っていて、そこで扱ったのがその3教科だったからです。公共政策はテーマ的に差がつきづらく、必然的に評価も厳しくなるのではないかと考えたからです。

勉強法

- 一次試験の自己採点が終わってから勉強を始めたので一か月ほどしかありませんでした。ですので、網羅的に勉強するのではなく、過去の出題傾向を分析してある程度あたりをつけて勉強しました。テキストの参考答案をフレーズ的に暗記して事例に当てはめられるように対策していました。
- 都庁の採用試験では記述が出題されますが、都庁よりも二次試験の方が遅いので、都庁対策で二次試験の対策も行っていました。別途二次試験のために行ったことはないです。
- 答案構成を考え、回答を確認するというのを過去問30年分行いました。また、よく出る規範に関しては一つにまとめて暗記していました。

経済区分

勉強を始めた時期・形態

- 3ヶ月前～半年前 独学

一次試験（専門択一）

- 選択科目は、「国際経済学」「経営学」「憲法」を選択しました。
- 必須問題対策にミクロ経済学、マクロ経済学、財政学、選択問題対策に「憲法」の公務員試験用の参考書を購入して2周しました。
- その他の、統計学や国際経済学、経営学は、過去に大学の授業で使ったレジュメや教科書で勉強しました。

二次試験（専門記述）

科目選択

- [経済理論、経済政策、公共政策] 必須問題である「経済理論」以外は、科目選択をする必要があります。「公共政策」は、経済系よりの分野とそうでない分野の2題から1題のみを選択して回答します。私は、経済系よりの方を選択しました。「公共政策」は対策しづらいと言われがちですが、グラフや資料の読み取りなどに抵抗がなかったため、選択しても大きくコケることはないと考えました。

勉強法

- 基本的には一次試験と同じテキストで対策しました。
- 「経済理論」のマクロ経済学分野については、ひよんなことから、大学でハイレベルな内容の授業を履修したことがあったので、これがそのまま役に立ちました。
- 人事院に過去問を請求して、対策を練っていました。

政治・国際区分

勉強を始めた時期・形態

- 半年～1年前 予備校
- 半年～1年前 予備校
- (半年～1年前 予備校 院卒者)

一次試験（専門択一）

- 暗記が得意なので、選択科目は行政学、国際事情など暗記科目を多く選択し、毎日同じテキストやノートを見返すように心がけていました。
- 教養試験の後、予備校に通い始めました。春試験まで時間がなかったため、大学で履修したことがある科目や、範囲が比較的狭い科目（予備校やネットの情報）に絞り、問題集を2～3周して勉強しました。
- 予備校の授業を聞き、復習をしました。1か月前に「間に合わない」と感じたので、勉強する科目数をギリギリに厳選し、さらに学部でかじっていたミクロ経済学の問題演習をして、目標点に届くようにしました。

二次試験（専門記述）

科目選択

- [政治学、行政学、国際関係]
- [政治学、行政学、国際関係A] 勉強時間が少なかったため、3科目に絞りましたが、本番で国際関係Aの問題に手も足も出なかったため、他の科目も勉強しておけばよかったのかなと今更ながら思います。
- [政治学、行政学、公共政策] 本番の政治学・行政学はなんとか書けましたが、公共政策は2問ともなじみのない分野が出て、大変でした……。

勉強法

- 択一試験+αで文章を構成する能力を向上させることを意識しました。答案を自分で何度も見直し、言い回しや正しい知識の確認を行いました。
- 予備校のテキストを使いました。
- 過去問で文章を書く練習や、構成だけ考える練習をしました。とにかく時間配分を練習を通してつかむことが大切だと思います。

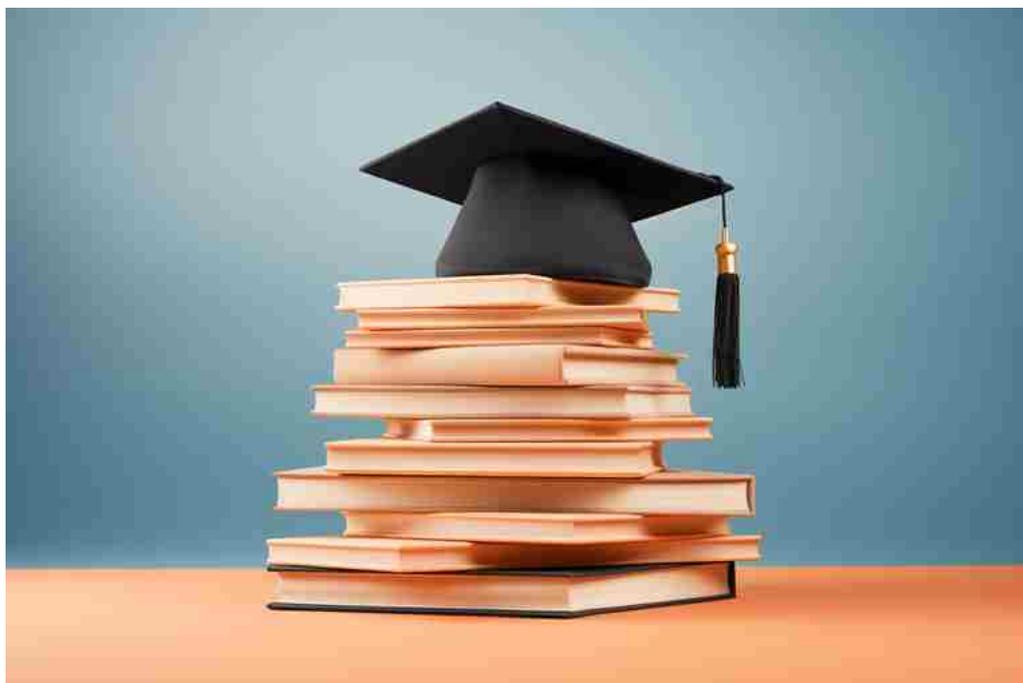
院卒行政区分

勉強を始めた時期・形態

- 半年～1年前 予備校

全体

- 一次試験・二次専門記述については、予備校の(大卒)政治・国際区分の授業を受けました(→各区分の体験談を参照してください)。
- 大卒の区分と違うところは、二次試験の政策課題討議です。また、面接で(院進したぶんだけ経験や熱意が違うはずなので、)研究について聞かれる可能性が高いと思います。研究内容を短くわかりやすく伝えることや、なぜ就職の道を選んだかについて説明できると良さそうです。



政策課題討議

該当：教養区分（秋試験）、院卒（春試験）

勉強方法

討議全体の練習をした！

- 受験者同士で模擬討議をして、流れを把握しました。
- 予備校の講師や大学の先輩（昨年度合格者）と何回か練習して、フィードバックをもらいました。
- 練習を通じて自分のフレームワーク・役割を決めていくことで、本番でも焦らずに討議を行うことができると思います。

レジュメの練習をした！

- 過去問を入手して、レジュメを短時間でまとめる練習をしました。
- レジュメを見たときのわかりやすさを重視して練習しました。

あまり対策していない／討議部分はあまり対策していない

- 一度練習してみて、どれだけ話すことができるかによって、対策の必要が変わってくると思います。私の場合は対策がしづらく配点も少ないので、長時間の練習はなくて良いのかも感じました。
- 民間のグループディスカッションと同じなので、特別な対策はほぼしていません。ニュースを幅広く見ていました。

ポイント ～内定者が考える、細かいコツや心構え～

評価の考え方

- A評価を無理に狙うよりは、議論についていき、適宜、論題に沿った発言をすることでC評価を狙う、といった戦略を取るのが確実だと思います。

ポイント（続き）

討議のポイント

- やろうと意識すること……発言していない人に対して意見を聞くこと（＝全員が意見を言いやすい環境を作る）／目的意識を持ち続けること（何に向かって話しているのか）
- やってはいけないこと……1人で話し続けること／相手を論破することを目的とすること／相手の意見を否定すること／一言も話さないこと
- 司会は難しく、自信がないならファシリテーションはしない方が良いと思います。その上で、ファシリテーションをする場合は、ある程度の進行論、進行方法のパターンを理解しておいた方がいいと感じました。

レジュメのポイント

- 多くの先輩の書き方で共通しているのは、「結論を頭を書く」ことだったと感じました。他にも、「現状分析・目標→方針→課題」（＝総合論文の構成と同じ？）という書き方も多かった気がします。人によってそれぞれなので、いろんな合格者の方に聞いてみるのは有用かもしれません。
- 「自分の立場→現状→その立場を選択した理由→選んだ立場の欠点や留意点→その解決策」といった書き方をすると見やすいです。メリット・デメリットをまとめた表を使うと分かりやすくなります。



政策論文

該当：教養区分（秋試験）、学卒（春試験）

勉強方法

書き方の練習をした！

- 公共政策や政策討議に関する市販の本を一冊購入して、対策をしました。政策を立案するための専門的な用語やその言い回しなどもその市販の本を暗記して活用しました。また、過去の受験生の合格答案を参考にして、文章の書き方や構成を学びました。
- 予備校の講師や大学の先輩（昨年度合格者）と何回か練習して、フィードバックをもらいました。
- 結局は資料の要約が大事なので、過去問数年分の資料の要約をしました。
- 教養区分の場合は、2つの論文が課されます。論作文を書く際に留意すべき、正しい書き方やマナーを身に付けることが第一です。私の場合は、こうした書き方を知るとい以外に対策は全く行いませんでしたが、私を真似せずにしっかりとした対策を行うと良いと思います。論文を実際に書いて先生や友達に添削してもらったのが最も簡単でおすすめです。

日頃から情報収集をした！

- 新聞やテレビのニュースに目を通すようにしていました。本番で出題されたテーマは情報でしたが、ニュースで取り上げられていたマイナンバーカードに関する論点を具体例として書くことができました。
- 新聞をよく読んだり、日曜討論を観るなどして、論点の洗い出し方を日頃から意識するようになっていました。

周囲の人に添削してもらった！

- 基本的には塾の対策ゼミを利用して、問題文の分析の仕方や論理的な構成の作り方について過去問を使って練習していました。その際に、他の志望者の方を回答を見せ合って、質問や矛盾点の指摘をし合うこともしていました。塾に入っていない人でも、総合論文の添削をしてもらうだけのコースもあるので、そのようなものを利用するのがおすすめです。（確か私が見ていたのは申し込みが5月くらいまでだった気がするのですが、気になる人は早めにチェックする方が良いと思います。）

ポイント ~細かいコツや心構え~

全体のポイント

- 本番では①聞かれたことに正面から答えること②答案構成を練る時間をとること③与えられた資料を使い切ることを意識しました。

評価の考え方

- 基本的には、受験者の独自性を見て良い人を取る試験というよりは、正しい日本語を書くことができるか、論理的な文章を書けるかなどを見てやばい人を落とす試験だと思うので、知識をたくさん詰めるというよりは、それを如何に、論理的に、妥当性のある形で書き出すことができるのか、を意識して対策すると良いのではないかと思います。



失敗談

勉強は計画的に…

- 夏休みにそれなりに遊んでしまったため、他の人と比べても勉強時間が少なくなっていました。今思えばもう少し計画的に勉強するべきでした。
- 教養区分を受ける予定だったのに、特に計画を立てずに勉強をしたり8・9月に民間公務員問わずインターンに複数参加したりしました。その結果教養区分の試験対策が間に合わなかったのも、見通しを立てるのは大切だと思いました。(なので、春試験の勉強を行う際には、まず初めに試験当日までのおおまかな計画を立てました)
- 民間就活に取り組んでいる友達やすでに就活を終わらせた友達からの遊びや飲み会の誘いを断り切れず、誘惑に負けてしまうことがありました。

対策の比重

- 教養区分の試験対策において、企画提案試験の対策にあまり大きな比重を置かず、人事院面接とほぼ変わらない重さで対策をしたのが失敗でした。結果的に人事院面接で良い評価を得られたため良かったものの、企画提案試験の方が事前準備の差がより顕著に出るため、もっと対策をすればよかったです。当日は鋭い質問攻めにあってしまいました。

試験当日に…

- 2次試験は科目選択をする必要がありますが、事前に何を選択するか決めておらず、試験当日に、財政学と公共政策のどちらを選択するか迷い、時間をロスしてしまいました。
- 1次試験当日、本当に緊張しすぎてしまって、全体的に全然時間が足りず、ずっと焦っていました。総合論文なんて、片方は途中で終わってしまってこれはもうだめだと思いました。ただ、そこで反省していても気分が暗くなるだけなので、反省はあとあと！ と切り替えて、次の試験に臨めたこともあってどうにか合格していた気もするので、切り替えは大事だと思います！

試験対策以外も

- 私に関しては勉強を重視しすぎたのが失敗だったと思います。すなわち、勉強以外の説明会やインターンなどには積極的に参加することをおすすめします。一度決意したとしても、考える過程で就職先が変わるとするのは珍しくないと思いますし、この先の生活の大半を過ごすことを決めるとなるとそれはある種当たり前のことだと思います。
- 面接や政策討議で緊張して、上手く話せなかったのも、夏に民間のインターンで経験を積んでおけばよかったと思っています。
- 民間併願の大変さをわかっていませんでした。民間のESや面接練習と、公務員試験勉強の直前期が重なる、3~4月が本当に忙しいです。「どっちもやりたいのに中途半端になる……」と、精神にきました。もちろん、基礎能力の勉強が民間のWebテスト対策になるなど、シナジーもありました。

官庁訪問

Visiting Government Office



写真
上 吹割の滝
下 山形県 蔵王

官庁訪問とは

・官庁訪問は、採用試験最終合格後に自身の志望官庁を訪問して業務説明や面接を受けるもので、志望官庁に採用されるためには欠かすことのできないプロセスです。官庁訪問を通じて、各官庁は受験者の関心事項や人柄などを見て適した人材であるかを確認します。また、受験者も繰返し面接を受ける中で、志望官庁に関する知識を深め、自分のやりたいことができる省庁を見極めることとなります。

・例年、採用試験合格発表後に官庁訪問が始まります。(2023年度のスケジュールは下記のようになりました。)また、官庁訪問はクール制で行われ、各クール内は異なる省庁を訪問します。2023年度は4つのクールで構成され、第4クールでの訪問を以て内々定となりました。なお、最新の情報については、人事院のHPをご覧ください。

6月										
12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
第1クール			第2クール			お休み	第2クール	第3クール		第4クール
最大3省庁まで訪問可能			最大3省庁まで訪問可能					最大2省庁まで訪問可能		内々定解禁

2023年度官庁訪問スケジュール

訪問例：

6/12(月) 第1クール環境省

6/13(火) 第1クールA省

6/14(水) 第1クールB庁

6/15(木) 第2クール環境省

6/16(金) 第2クールA省

6/19(月) 第2クールB庁

6/20(火) 第3クール環境省

6/21(水) 第3クールB庁

6/22(木) 第4クール環境省 ←内々定！

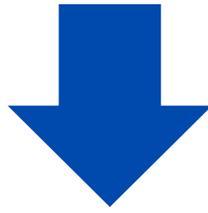
第2クールでは、第1クールと同様の訪問順で各省庁を回る必要があります。

第3クール以降は、訪問順番がリセットされるため訪問者の任意の順番で訪問することができます。

面接の種類

入口面接

1日の最初に行われる面接です。簡単な志望動機や自身のガクチカについて質問される他、関心のある分野・政策について聞かれます。

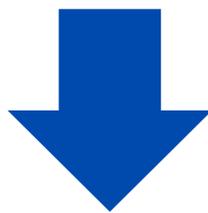


原課面接

実際に職場を訪問し、職員の方が携わってきた業務について伺うことができます。基本的には業務内容を説明していただいた後、訪問者が質問をするという流れです。簡単な志望動機など自身に関することを聞かれることもありますが、主には業務内容の理解や職員の方の雰囲気を知る場と捉えるのが良いでしょう。

人事面接

採用担当(人事)の職員の方と行う面接で、評価対象となる重要なものです。志望動機やこれまでの経験、原課面接で学んだことなどについて詳しく聞かれます。また、実現したい社会像や自身が取組みたいことについても聞かれます。人柄や雰囲気もよく見てくださるので、リラックスして臨むと良いでしょう。



出口面接

1日の最後に行われる面接です。その日を通しての感想を聞かれ、最後に評価を伝えられます。終了時間は様々ですが、常識の範囲内です。

1日のスケジュール例

時間	面接の種類	内容
9:30～10:00	入口面接	志望動機やガクチカ
10:30～12:00	原課面接 課長補佐	地域脱炭素の制度設計について
12:00～13:00	昼休憩	庁舎内のコンビニや食堂で昼食をとる
13:30～15:00	原課面接 係長	海洋プラスチック問題に関する議論
15:30～16:00	人事面接	理想の社会像や自分が取組む意味について
16:30～17:30	原課面接 課長補佐	福島復興、PCB処理について
18:00～18:10	出口面接	1日の振り返り、評価

時間や面接回数、内容等は人によって様々です。

入口面接で志望動機を話す際に、興味のある政策やその日に聞きたいことを伝えることができます。

その内容を基に原課面接でお会いできる職員の方が決まります。

時には、年次の高い職員にお会いすることもあり、これまでのキャリアパスに基づいた興味深い話が聞けるとともに、将来の日本についてディスカッションをすることができます。

官庁訪問対策

・ 説明会や個別職員訪問に参加

→省としての考え方をよく把握して受け答えできるように、説明会や個別職員訪問に積極的に参加した

→場慣れや知識を深める点で役立った

・ 資料の読み込み(白書、予備校の資料、説明会の配付資料)

→自分の関心のある政策分野について白書の該当箇所を読み、さらに知りたいことを調べた

・ 想定問答の作成

→訪問カードに沿って質問されることを想定して具体的なエピソードを話せるように準備した

→インターネットの体験記を参考に想定問答集を作り、自問自答の面接練習をした

→予備校の資料を参考に概要を把握しながら事前に質問・逆質問などを考えていた

・ 勉強会に参加

→総合職志望の大学の友達と政策研究や志望動機の添削を行った

→それぞれが志望する省庁についての話を聞いたり、議論をし合ったりした

→モチベーションの維持に役立った

・ 訪問者カードの添削や面接練習(大学のキャリアセンター、民間企業の面接、職員訪問、大学生協の公務員講座)

→公表されている各省の面接カードをダウンロードし、志望動機や入省してからやりたいことなどを言葉にして整理した

→志望動機は、これまでの経験の深掘りや説明会で学んだことを自問自答して整理した

→なぜ他省庁や地方自治体、民間企業、NPO・NGOではないのか、なぜどうしてもその省庁でないといけないのかを論理的に話せるように練習した

→塾や内定者の先輩、他の志望者に面接カードを見せて、矛盾点等を指摘・添削してもらい、1対1で面接練習をした

→面接官の目を見てハキハキ喋ることを常に意識して練習していた

→経験をたくさん積んで、自信をつけるようにした

→「面接をしている」というより「会話をしている」といった意識を持ち、自然な会話のキャッチボールの中で自分をアピールできるように心がけた

参考にしたもののランキング



内定者の声



予備校や生協講座の資料



インターネット上の資料 先輩からの情報



省庁HP、白書
業務説明会の資料、友達からの情報

官庁訪問当日

人事面接で聞かれたこと

- ・ 就活の軸は何か
- ・ 将来実現したい社会像は何か
- ・ なぜ民間ではなく国家公務員なのか
- ・ なぜ環境省を目指すのか
- ・ 興味のある政策分野は何か

- ・ どういう生き方をしたいか
- ・ 学生時代注力したことは何か
- ・ これまでに最も大変だったことは何か
- ・ それをどう乗り越えたのか



原課面接で聞かれたこと

- ・ なぜこの政策に関心があるのか
- ・ 地方で脱炭素を進めるために、地方の人をどのように巻き込むか
- ・ 政策をどのようにPRするか
- ・ 自分がその分野の担当だったらどうするか
- ・ 若者の環境問題への当事者意識について

- ・ これまでの人生であなたが一回り成長できたなと感じること
- ・ 何か不安なことはあるか
- ・ 併願先の省庁や民間企業について
- ・ ゼミナールの研究について

人事面接と原課面接で質問の内容にあまり差はありませんでした。全体的に面接っぽさはなく、本当の意味でのマッチングを見ているのではないかと思いました。

待合室での過ごし方

- ・原課で聞いたことをノートにまとめていた
- ・訪問者同士で話したり、もらったお菓子を食べたりして緊張を紛らわせていた
- ・読書をしていた
- ・アットホームな雰囲気、志望者同士で情報交換を気軽に行うことが出来た
- ・他の訪問者の方と歓談していた
- ・面接で聞いた話を整理したり、訪問者同士で話したり、職員の方と話したりした
- ・官庁訪問の面接は1回が1時間を超えることもあるので、糖分の補給は計画的に（お菓子・ジュース等）

雰囲気

- ・思っていたよりも職員の方が優しく穏やかで面接というより会話をしている感覚だった
- ・待合室では、訪問者同士でいろいろな話ができアットホームな雰囲気でだった 志望者は明るくのんびりした人が多かった印象
- ・時間が経つごとに志望者の絆が深まっていき、仲良くなれた
- ・人事面接も原課面接も、気になることがあればなんでも質問できた
- ・原課面接の職員の方はそこまでこちらを試そうとするような姿勢ではない
- ・人事面接ではそれまでの原課面接等で学んだことや覚悟をアピールしなければならず、職員の方もそれを試そうとしているので、少しひりついた雰囲気だった

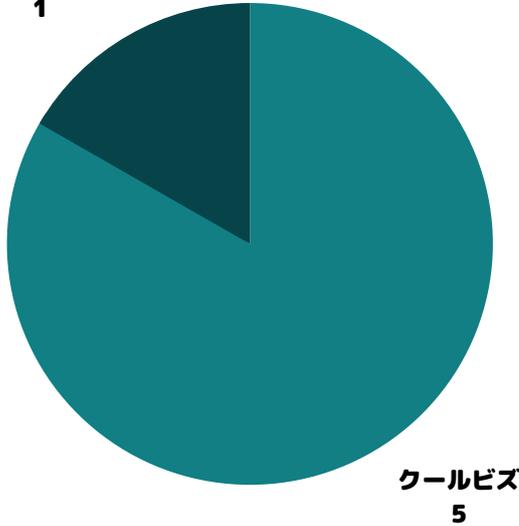
休日の過ごし方

- ・睡眠／TVで動画視聴／気分転換に観光
- ・県庁の試験を受験しに行った
- ・バイトをしたり、友人と電話したりした
- ・インドカレーを食べた 地方上級の試験もあったので、一度地元に戻った
- ・ノートをまとめたり、もらった資料を読み直したりしていた

服装

～男性～

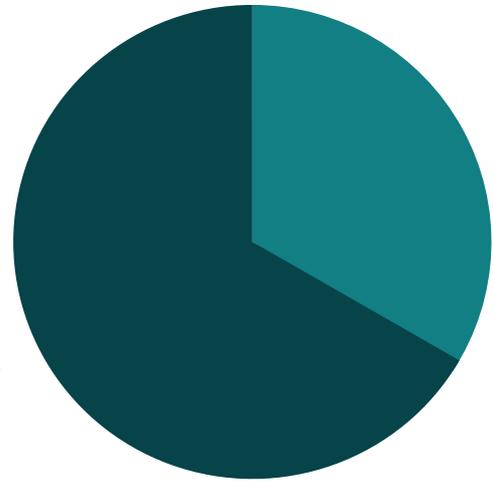
フォーマル
1



～女性～

クールビズ
2

フォーマル
4

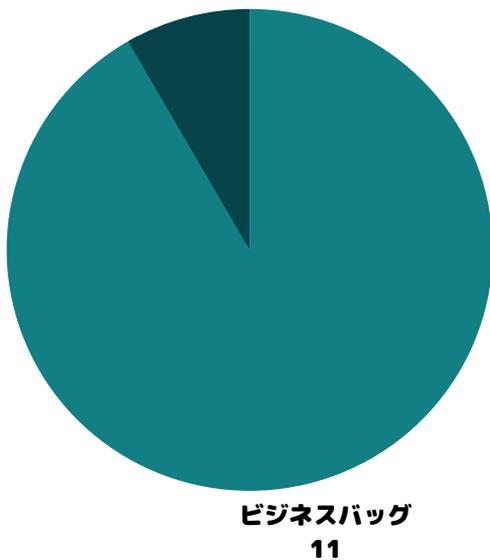


クールビズ(ノージャケット・ノーネクタイ)
フォーマル(Yシャツ・ジャケット・ネクタイ)

クールビズ(ノージャケット)
フォーマル(ジャケット)

かばんの形態

リュックサック
1



環境省だけあってクールビズが多い！

暑い時期の面接なので涼しい服装がオススメですよ

おすすめ持ち物ランキング



軽食



メモ帳
うちわ
扇子
ハンディファン



名刺入れ
エコバッグ

説明会の資料
汗拭きシート
マスク
マウスウォッシュ
タオル
絆創膏

飲み物
本
イヤホン
頭痛薬
折りたたみ傘
パソコン

全体を通して意識したこと

政策に対する事前の知識よりも、入省後に何をしたいか、なぜそうしたいと考えるようになったのかについて熱意が伝わるように話すことを意識しました。また、原課で学んだことは、その都度まとめて簡潔に言えるように心がけた。

素直にわからないことは聞く。

環境省の大切にしている理念を考え、どのようなことが自分にできるかを考え続けました。

色々なことに興味を持って、柔軟に、ポジティブに対応すること。

たとえどんな難しいことや抽象的なことを聞かれたとしても、自分の頭で考え、自分の言葉で意見を述べられるようにすること。

等身大の自分で挑むこと。面接官や職員の方との会話を楽しむこと。

面接の際は質問に対し的確に答えるため、結論ファーストで話すことと質問の意図を念頭に置きながら話すことを意識していました。

とにかく正直に接することを意識しました。官庁訪問の日数を考えると嘘は結局ばれると思っていましたし、正直に自分を出した結果落ちてしまう省庁は結局この先働いても上手くいかないと割り切っていたのでとにかく自分を正直に出しました。ただ、その中でも最低限の礼儀や知識の補強などは準備として行っていました。

2週間を通して成長する、という意気込みと、自分が仕事とのマッチングを見極める側でもあるので、しっかり見て判断するんだ、という意識もありました。

私の志望動機は「国家公務員になりたい→環境省」ではなく「環境分野で働きたい→環境省」であったり、生物多様性分野に強い興味があったりなど少し特殊だったので、「国家公務員としての職務を理解していること」や「強い興味がある政策分野以外の仕事にも気概を持って取り組む覚悟があること」が伝わるように意識していました。逆に言えば、環境一辺倒であったり興味のある分野の仕事だけしたいという人は総合職事務系として内定を得ることは難しいと思います。

①気負い過ぎず自分の意見を素直に・正直に伝えること、②なるべくわかりやすく論理的に話せるように、結論ファーストで話すことの2点は、全体を通して意識していたと思います。特に①に関しては、用意してきたものをただ話すのではなくて、職員さんからの質問の誘導に乗って、自分は物事をどのようにとらえるのか、何を考えているのかを深掘りしていくぐらいの心持で参加するようにしていました。

反省点

日を経過する毎に疲れが溜まり集中力が低下してしまいました。ですので、毎夜おとなしく早めに寝ることが大切だと思います。

原課のおわりのタイミングが分からず、気まずくなること。始まる前に聞くべきでした。

精神的負荷がかかることもあるので休日のリフレッシュタイムはしっかりと確保してください。

緊張しすぎてしまいました。

第2クールで腕時計を忘れて、原課面接のタイムマネジメントが上手くできなかったです。

時間にもう少し余裕をもって行動すればよかった。

オンラインで原課面接をする際に、聞こえにくくてもすぐに聞き返せなかったことがあったので、遠慮せずに聞こえにくいと伝えられていたらよかったなと思います。

ドライアイなのに目薬を忘れたこと。

他省庁は、待合室での態度を見ていたような気がするので、省庁の悪口とか、モチベが下がってきたとか、言わない方がいいと思います。環境省はそんなことはなかったかもしれません。面接では、聞かれたことに簡潔に答えるという鉄則を忘れがちだったことが反省点です。とくに私は、緊張したらしゃべりすぎてしまう癖があるため、緊張感のある面接の場では出てしまったと思います。自分の伝えたい思いや熱意があるのは素晴らしいことですが、言いたいことを自然なやりとり、会話のキャッチボールの範囲に抑えておくことも大切です。逆に緊張したら黙り込んでしまう人はしゃべるように心がけるなど、自分の癖を知っておくことも大事だと思います。

官庁訪問3日目は大方選考が終わり、第1・2ターム程しっかりした面接をやらないと思っていたが、実際はがつつり面接があったので、少し焦ってしまいました。気を抜かずにしっかり準備をするべきでした。

座談会



写真 西表島浦内川のマングローブと原生林

地方出身者のリアル

メンバー



やぎ
関西在住



てんびん
関西在住



いて
関西在住

説明会・インターンについて



やぎ
説明会参加
15~20回
インターン参加
有

説明会参加回数は20回くらい、インターンは対面(スマートリアル)とオンライン(女子霞が関インターンシップ)に参加しました。説明会は関西地区で開催された合同説明会以外は全てオンラインでの参加です。環境省はオンラインでの説明会が多かったのと、質疑応答の時間がたっぷりあり気軽に職員の方とお話できたので、地方在住故に対面の説明会になかなか参加できないことに対する焦りはあまり感じませんでした。

対面とオンラインのインターンに参加してみて、どちらのインターンでも職場の雰囲気や職員さんの働き方をよく知ることができました。対面の場合、実際に職場に足を運ぶことで自分が働く際のイメージがしやすくなりました。オンラインは全国各地のたくさんの職員の方からお話を聞くことができ、職員さん同士で会話する様子もたくさん見ることができたので、職員の方々の人柄を良く知ることができました。

私は、中央省庁のインターンシップについては全く参加していませんでした。参加しなかったのは、学内の公務員講座において日に6コマの受講を課せられる日もあり、時間的に余裕がありませんでした。また、大阪府のインターンシップに参加していたので日程調整が難しいということもありました。しかしながら、インターンシップは貴重な経験ができる機会だと思います。実際に職務に就いている方々のお話を聞けることや職場の雰囲気を知ることもできると思います。地方からだと言銭的な負担もありますが参加することの価値は十分にあると思います。

説明会に関しては、関西で開催される説明会に参加しました。そのときは、まだ志望先が明確でなかったので環境省以外の説明会にも参加しました。それぞれの省庁で特色や強みが違うので説明会にはなるべく参加することをお勧めします。説明会を通して志望先を明確にできることではないかと感じました。



てんびん
説明会参加
0~5回
インターン参加
無



いて
説明会参加
5~10回
インターン参加
無

京都では、たぶん年1回、対面で座談会があります。職員さんの生の雰囲気を感じられてオススメの機会です。

それに参加した感想は、「オンラインでの印象と一緒だ！」でした。ですからオンラインでも雰囲気はつかめていて、さらに対面ではそれを確認できるし、より職員さんを身近に感じられるということだと思います。

インターンシップは、働くイメージがつかめて、「公務員は自分に合っているか」などを考える材料になるので、応募した方が良いと私も思います。とはいえ、私は応募して落ちちゃったので、同じ境遇の方もご安心を笑

官庁訪問について

私は官庁訪問の少し前から関東近郊にある弟の家に泊まり、第1クールから対面で参加しました。弟の家は霞ヶ関から距離があるのでホテル滞在にも惹かれましたが、お金がかからないのと話し相手がいる安心感が得られるということで弟の家になりました。

休日は親と電話をして志望動機のブラッシュアップを手伝ってもらったり、ゲームをしたり観光をしながら過ごしました。



やぎ
かかった費用
1~5万円
オンライン訪問
無



てんびん

かかった費用
10万円～
オンライン訪問
無

官庁訪問はオンラインを利用しませんでした。後に述べるように負担はありますが、環境省の雰囲気を知ることができ、実際に職員の方々とお話してみたいという思いがあり、環境省を実際に訪問しました。

官庁訪問については、地方からだと時間的、金銭的な負担があります。時間的な負担の軽減に関しては、新幹線の利用、官庁からの距離が近いホテルの活用などが効果的だと思います。霞が関駅は東京駅から数駅のところにあるので東京駅が始発、終点となる新幹線の利用はお勧めです。さらに、官庁からの距離が近いホテルの利用は朝の準備に余裕ができ、慣れない革靴やパンプスの疲労軽減にもつながるのでお勧めです。また、小さめのマッサージ機器があれば疲労回復にとっても効果的です。金銭的な負担に関しては、前もっての準備があっても良いかなと思います。

オンラインを利用しなかった理由は、第1クール3日目～第2クール1日目の間に移動するのが大変そうだったからです。実際、3省庁回る人は、それで正解な気がします。

私は官庁に20分以内で行けるホテルを利用しました。オススメは、安くても「〇〇社ベッド使用」といった売り文句があるホテルです！ 十数連泊になるため、途中でホテルを変えたくない人は、予約を春のうちにするのが良いでしょう。

あと、東京の地下鉄は難しいですね。前日に予行演習として、一度環境省前まで行きました。自信がない人は、職員さんに「心配です…」と相談してみるといいかもしれませんね。



いて

かかった費用
10万円～
オンライン訪問
無

選考前準備

説明会・インターン
OBOG訪問・やっておけばよかったこと

～説明会参加状況～

-  みんな何回ぐらい行った？
-  説明会はゼロです。行ったことなかった。
-  すごいね。それでも通るってことは説明会の回数とか環境省はあまり見てないのかもね。
-  そうだね。だから、今回は説明会ゼロ回の人もあるよってことを積極的に発信していこうと思う(笑)
-  合同説明会みたいなものも行ってないの？
-  業務説明会とか一次合格者対象の説明会とか、そういうのも環境省は行ってない。
-  俺は10回以上行ったかな？
-  結構行ってるね。ちなみにどういう種類の説明会に行ったの？
-  種類は特に限定してなくて、いけるやつはスケジュールが合えば出た感じかな。時期は年明けてからで、官庁訪問まで時間がまあまあ迫ってたからとりあえず出られるのは出たかな。逆に言うとそれまでは全く行ってなかった。
-  他の省庁とかは行ってない？
-  農水省だけ1回だけ行ったかな？
-  なるほどね。
-  私は6回ぐらい行った。政策シミュレーションに結構行くようにしてて、夏ぐらいだと理工系が事務系と合同でやってたのでその政策シミュレーションは行きました。
-  その政策シミュレーションは僕も何回か行った。環境アセスメントとかナッジがテーマの回に何回か。全体の説明会は僕も5.6回かな。
-  あと少人数説明会みたいなもののオンラインでやってたよね。あれは普通の説明会と違って、すぐ募集終了になっちゃうので、気をつけた方がいいね。
-  座談会のこと？
-  そうそう

- 
- 座談会は何回くらい行った？
- 私は1回だけ。
- 座談会は3.4回くらいじゃないかな。
- 結構行ってるんだね。「」は行ってないの潔いよね(笑)
- そうだね。行ってない。まあでもそれが逆に官庁訪問期間中、開き直れた部分ではあったかな。
- なんで行かなかったの？
- もともと環境省志望じゃなかったから、公安系、外務とか防衛とか公安調査庁とかあと経産省とかは何回か行ったんだけどね。官庁訪問直前の時期で、志望動機書いてるときに環境省が一番書きやすくて。
- まあ確かに直前まで結構変わったりするもんだよね。
- うん、直前までもうすっごく悩んでて。どこ行こうかなって。そうなった時に一回公安系はとりあえず置いておいて官庁全体をもう一回見てみて、環境省良いなあって思ったかも。
- 俺は逆に最初から環境省を一筋で試験受けたから真逆だねえ。
- 確かに。
- それは僕も一緒かな。環境省が第1志望で最初から行ってたんで。
- 私も最初から環境省結構いいなって思ってたけど、民間も省庁も含めていろいろ見た上でやっぱり環境省っていう感じ。



～民間就活との兼合い～

- 
- ちなみに民間企業の説明会と省庁の説明会がバッティングして大変だったみたいなエピソードとかはある？
- いや、環境省も毎日のように説明会とかやってるわけではないし、民間も1日か長くても2日っていう説明会が多かったから、空いてる時に環境省の説明会に行ってたね。
- 俺は民間は2月頃に1つだけ見てみたけど一瞬でやっぱりいいやってなったから、特にバッティングとかはなかった。
- 僕も民間は全然見てなくて、3年の夏に一回、民間のインターンに行ったけど、それ以来は全く行ってないって感じ。
- 全く一緒に、3年の夏休みにワンデーのインターンに2つか3つ参加して、民間はそれっきりみたいな感じかな。ワンデーだったから、ただ申し込むだけでESとかも書いたことなかった。

～スマートライアル・インターンシップ～



みんなスマートライアルとかインターンシップ行った？



僕両方とも行ってないんだよね。



行ってないね。



俺もスマートライアルは行ってない。俺と「」はインターンシップ一緒だった。



そうだったね。スマートライアル行った人いるかな？って思ったけどいなかったか。



そもそもスマートライアルってどんなイベントなの？



政策シミュレーションのもっと膨らましたバージョン的な感じじゃないかと思う。今年は2日間開催らしい。



実際に施設を見学できるのも魅力らしいね。



いいな。今年は国立環境研究所に行くんだって。



インターンシップの方は2人は行った感じなんだ？



そうだね。



5日間行った。



あ、結構長いんだね。



うん。インターンシップ中にお会いした職員の方で、学生時代2週間インターンシップ行った方もいた。



へえー、そんなに長いんだ。ちなみにどんなことやったの？1週間、というか5日間で。



いわゆる就活のインターンシップというより、長期インターンシップに近い形のインターンシップで、実際に環境省の課に入って職員の方々と一緒に働く体験をしてみる、って感じだった。

それで、職員の方々は外部の機関、例えば金融機関だったり自治体の方々とほぼ毎日打ち合わせがあるから、それに同席させていただく機会が多くて、あとは職員の方々が時間を作ってレクチャーしてくださったりして、最終日には5日間のインターンシップをふまえて、それぞれ発表したよ。



なるほど。



環境省に入ったらこんな感じで働くのか、ってイメージができた。ただ、配属先の課の職員の方は、環境省の他の課と結構雰囲気違うかもって言ってた。



インターンシップのお知らせみたいなのって大学に来るものなのかな？



大学のHPのお知らせ欄に環境省のインターンシップの案内は来ていたし、環境省の公式HPにも、インターンシップは大学を通じて受け入れている、って書いてあったのを見たよ。



俺は、大学にお知らせが来てたのかどうか分からない。インターンシップについて書いてある環境省のHPを見たのはゼミの先輩に聞いたからなんだけど、それがなかったらそもそもインターンシップの存在すら知らなかったと思う。



環境省のインターンシップに行きたい、ってなったら大学からお知らせとか来てるか分からなくても、一旦学事の窓口に聞いてみるのが良いのかな。



～OBOG職員訪問～

● 次のお題OB訪問。

● 私は行ってないです。

● 僕もしてないです。

● 自分もしてないです。

● 俺だけかな？俺は 三回だけ行ったな。

● 結構行ってるんだ。

● ほんとはもっと行きたかったんだけど、三回だけ行きました。

● どれぐらいの年齢の方に会うんですか？そういうの。

● 官庁訪問でメインで会う方たちと同じ年齢層かな？若手から中堅ぐらいの。

● 原課で会う人たちと同じぐらいか、なるほど。

● 一回目は同じ大学卒の人と話したいってことでOB訪問して、2回目3回目は興味ある制作分野を指定してセッティングしてもらった。

● どんな政策分野の聞いたんですか？

● 外来種と生物国家戦略と地域循環共生権。

● どういう形式だったの？

● 一回目だけ対面で、あと二回はズームだった。この政策分野ではこういうことしてますよ、みたいな説明を受けて、あとは何か質問ありますか？みたいな感じで、政策とか官庁訪問、働き方の話を聞いてた。

● 何か役に立ったと感じたことある？

● 原課面接と本当に同じ感じだったから、雰囲気とかに慣れる点では官庁訪問には役立ったって感じたね。

● めっちゃいいね。自分の志望動機とかって見てもらえるんですか？

● 多分見せたらアドバイスは貰えると思うけど、俺は見せてないな。OBOG訪問とか少人数座談会とかだと結構個人的な話はしやすいよね。ZOOMで大人数でみたいなところだとちょっと聞きにくいものもあると思うから。

● うん。

● OB訪問には審査みたいなものあるの？

● いや、多分ないかな。こっちが希望した部署政策分野の部署の人で日程が合う人をアテンドしてくれる感じだから。

● えー、それはいいね。

● 皆さんはOB訪問の制度あること自体は知ってましたか？

● 僕は知ってたんだけど、なんかそもそもOBが少ないからまあ意味ないかなと思ってやってない。訪問ってOBOGだから会うのはやっぱり基本同じ大学の先輩なのかな？

● いや、OBOG訪問したいって言えば、同じ大学卒の職員になるし、この政策の話が聞きたいって言えばその政策の人が出てくる。

● なるほど。

～最後に一言～

- なんか最後一言ずつ言っとく？逆にやっつけばよかったことみたいなの。
環境省の事前準備ではなくなるけど、普通に他の公務員でもいいし民間でもいいけどなんか一個内定を持っていればよかったかな、官庁訪問の時期が遅いから、その前に内定を持っとくべきだったなとは思う。
- なるほどね。
- 受かることが出来たからいいけど落ちてたらね、、、どうなってたかわからないからね。官庁訪問のプレッシャーにもなっちゃうからそこは。
- なるほど。
- なんか用意しておいた方がいいね。
- お二人は何かありますか？
- そうだなあ。これは全く真逆の話になってしまうんだけど、説明会とかに行っていない自分から言えることがあるとすれば、まさるな状態で行くのも一つの手なのかなって思う。自分は国家一般職や地方公務員も受験していて、総合職に関しては皆みたいに説明会とかは出れなくて正直準備不足と言われれば準備不足だったんだけど、逆に開き直って環境省の官庁訪問に挑めたかも。等身大の自分で勝負できたし、環境省の職員の方も自分の内面も見てくれる。他の省庁だったら多分通用しないんだろうけど（笑）人間性をしっかり評価していただける部分も含めて環境省の良さでもあり、改めて環境省を好きになれた部分ではあったかな。
- それはすごく僕も共感するところというか、もうちょっと僕的にはそういう松波さんとか刀根君みたいに個別訪問とかをやっつけばよかったなとは思いますが、事前知識が少ないからこそ、官庁訪問中の原課訪問で、新鮮な気づきのリアクションが取れたというか、そこはプラスに働いたかなっていうふうには思っています、個人的には。
- 私の場合は、準備って多分ここまで準備したから大丈夫とかいうのは多分ないと思うので準備は自分の納得いくところまでやるのがいいのかなって思います。
- なるほど。
- そこまで準備したっていうのも含めて、その人の人となりというか、ある意味等身大だと思うので。
- そうだね。

就活を終えて

MEMBER



K



S



M



H

THEME 1 就活を終えて

M: 就活を終えて感じたこととかある？

S: 私は疲れたなーって、就活もうやりたくないなって思います。

M: 何が一番つらかった？

S: 長くて、すごい長かったです。

K: たしかに官庁訪問って民間就活が終わった後だから、周りのみんなが就活終えててちょっと焦った

M: 試験勉強もあったからそう考えると結構長い間就活してたよね

H: 就活期間中悩んだこととかある？

S: 面接が難しくって、とても悩みました。

M: 俺はそもそも公務員になるか、あとどの省にするかでかなり悩んだかな

H: 環境省を志望したのはいつなの？

M: 俺の場合は最初は全く違う省を見てたけど、説明会で省の雰囲気を見たり、志望動機を見つめなおす中で環境省に行きたいかもって思うようになったかなあ。

みんなはどうですか？

K: 僕は去年の12月くらいかな。すごく職員の方の人柄が良くていいなって思った。

S: みんなは官庁訪問何日目に訪問したの？

H: 私は3日目だよ～

K: 環境省を選んだ決め手は？

FLIP ME



H: 職員さんの人柄・雰囲気と、業務の幅広さに魅力を感じて、環境省に決めました！

(実際に訪問して見て、職員さんの人柄と自分が合っていて素を出して話すことができたことや、業務説明から業務についての解像度が上がり、環境省の業務の幅広さを改めて実感したことから)

K:他の2人も2日目、3日目だったよね？

M:そう2日目！官庁訪問の中で職員さんや仕事にひかれたのもあるし、1日目出なければダメという感じがなかったのも良かった

S:それは本当にそう。

THEME 2 入省後について

S:理想の働き方は？

M:本省での仕事もそうだけど、俺は地方でも働いてみたいかな。

K:環境省は地方で働く機会もあるもんね～

H:私は、環境省の仕事って環境省だけで完結するものは少ないからこそ、地方もそうだし、他省庁や民間企業の方など、色々な人と積極的に関わり合っていて働いてみたいな

S:いやーすてき、！私は、海外行きたい。

M:海外行く機会もあるんだっけ？

S:あるはず！在外公館とか、国際会議とかいろいろある気がする！

M:なるほど。あとは原子力規制庁でも働いてみたい。

S:原子力規制庁に行く機会もあるんだっけ？

M:あるはず！事務系は一括採用になったし、出向とかいろいろある気がする！

H: K君は、特に関わってみたい分野は何かある？

K:生物多様性とか興味がある！これからますます重要になってくる分野だと思うから！Hさんはどう？

H: 私は、リサイクルや資源循環といった廃棄物関係の分野に携わってみたいかな。官庁訪問でも、詳しく話を聞いてより興味を持ったんだ～



M:他にやってみたいこととかある？

S:さっきのとちょっと重なるけど、国際協力に関心ある！

H:なるほど～

他にも仕事だけじゃなくて休日にやりたいこととかはある？

K:休日は家でゆっくりしたいな～みんなはどう？

M:俺は今までずっと野球をやってたから、社会人になってもやりたいかな。環境省には部活もあるみたいだし、興味あるかも。

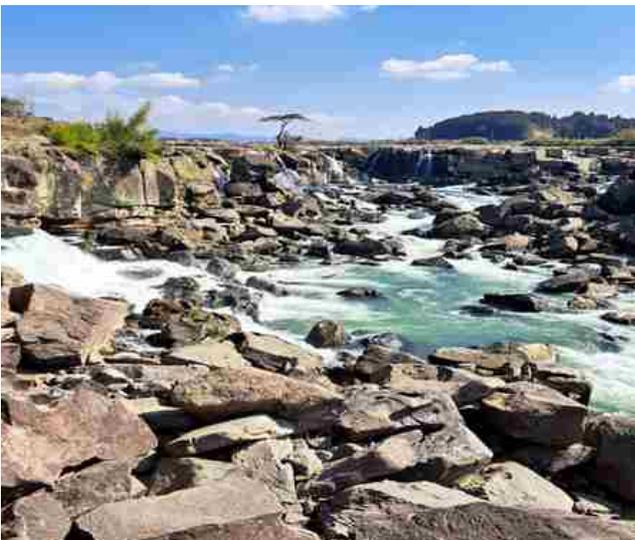
S:おーいいね。私は、ちゃんとNETFLIX見る時間あったらいいなと思ってる。

H:私は、ちょっと長くお休み取れたら旅行とかしたいかも。環境省に入るし、時間があれば国立公園とか巡ってみたい！

←
END



MESSAGE FOR READERS



MESSAGE

自身の原体験を志望動機に上手く結びつけることが大切だと思います。幼いころから自然環境に身を投じて様々なアウトドアアクティビティを楽しんできた自分にとって、環境省の志望動機を完成させることは難しいことではありませんでした。

また、これはどの省庁にも通ずる部分かもしれませんが、「入省してからの自分が取り組んでみたいこと」や「自身が大切にしている考え方」などをしっかりと持っている方は、官庁訪問を乗り切ることが出来ると感じました。環境省は、説明会に一度も顔を出したことがない私の人間性の部分や志望動機を公正かつ正確に評価して下さいました。そういった部分で、筆記試験の勉強のみならず、友人とのかかわり方やアルバイト先など日々の他人との関わり方や自己の性格の分析を行い、自分と向き合い見つめなおす時間を設けたりして、人間性の部分でも成長できるように意識することが出来れば、最後までやり抜くことが出来ると思います。

まず、就活を早く始めることはアドバンテージなので（経験が積める、内定をもらえれば安心できる）、もしできるなら始めると良いと思います。でも、秋から3月まであまり何もできなかった私でも、こうして内々定を頂けたので、焦りすぎないように。目の前の研究や留学なども大切にしてください。焦ったら、経験豊富なキャリアセンターや公務員試験予備校、社会人の知り合いなどに悩み相談をしてみてください。

学生生活でのきらきらした経験の有無を問わず、日ごろから「自分は何をしたいのか」「社会のためって誰のためなのか」といったことを考えている人は、国家公務員に向いているんじゃないかなと思います。自信を持ってください！

就職活動は人生における1つの大きな選択だと思うので、視野を狭めずに幅広い分野、業界に触れてみることをお勧めします。他省庁や民間企業と比較することで、自分がやりたいことは何なのか、自分はどういう人と働きたいのかということが明確になっていくと思います。そのうえで、国家公務員、そして環境省を選んでいただければ幸いですし、読者の皆様と働ける日が来るのを楽しみにしています。

一応環境省の宣伝をしておく、環境省は比較的新しく、規模が小さいということで、ベンチャー気質のある省庁だと思います。そういった雰囲気好きな方にはおすすめです。

試験勉強も大切ですが、勉強の息抜きに省庁の説明会に参加することも大切だと思います。説明会に参加することで、政策についての知識が深まるだけではなく、自分の志望動機のブラッシュアップにも役立つと思います。また、入省がゴールではなく入った後に何をしたいかを具体的にイメージすることを心がけると良いかなと思います。試験勉強や面接対策など道のりが長く大変ですが、自分のペースで頑張ってください。

「大丈夫だって言い聞かせていれば大概のことは上手くいく。やり方なんてきつとどうにかなってしまえば正解に変わる。」っていう歌詞が大好きで、わりと真理だと思っています。大丈夫です。

当たり前のことかもしれませんが、第一志望の省庁に内定を得られなかった場合の選択肢は確保しておいた方が良いでしょう。私はどうしても他の仕事に魅力が見いだせず、完全に環境省専願だったので、第3ターム終了後に結果が出るまで気が気じゃありませんでした（3日目に農林水産省に訪問しましたが、辞退前提でお話だけ伺いに行きました。職員の方お世話になりました）。民間にしろ他省庁にしろ、備えはしておきましょう。

MESSAGE

これは環境省に限った話ではないと思いますが結局はマッチングが大事だと思うので本当に自分のやりたいことがその省にあるか、そして省内の雰囲気や自分が合っているかなどをよく考えるべきだと思います。また、事務系は知識というよりも考え方が大事だと思うので、普段から問題になっていることに対して考えを持ち、それを自分の言葉で伝える癖をつけておくといいと思います。

公務員として環境問題に携わりたいと考えている方や、環境省に多少なりとも興味がある方は、様々な省庁のお話を聞くことが大切なのではないかと思いました。私は官庁訪問期間中、環境省を含む3つの省庁を訪問しながら、省庁ごとのビジョンや環境問題への取り組む手段、また自分が環境問題を通じて実現したいことについて頭の中を整理していきました。説明会や官庁訪問等を通じて省庁ごとの環境政策について知る中で、自分のやりたいことが何か、そしてそれを実現できるのはどこかということが明確になり、ひいては志望動機が自信をもって話せるようになるのではないかと思います。

どうしても「環境」そのものに注目してしまいがちですが、それだけでなく、視野を広く持って、環境が社会のさまざまな面に及ぼす波及効果も意識することが大切だと思います。

就活は、一見すると、答えのない選択肢を選ぶようなものだと思います。しかし、これまでの人生で体験したことや経験したことの延長線上に環境省という選択肢があるなら有意義な選択をしたことになると思います。環境省で一緒に働くことを楽しみにしています。

公務員試験は、官庁訪問を含めるとすごく長丁場ですし、民間就活とは流れが全然違うので、モチベーションを保つのが大変だと思います。私は、行っていた塾や説明会を通して志望者とながり、他の方の勉強状況を見て刺激を受けることや、内定者の先輩から沢山話を聞いて不安を解消することで、何とか最後までやり抜くことができました。人によってモチベーションの保ち方は違うと思いますが、1人きりで悶々と考えるだけでなく、他の人の状況や内定者の話を聞いて自分を客観的に見つめる時間を作るのも重要なのかなと思います。そこまで知り合いでない方に連絡するのは結構勇気がいることだとは思いますが（私は苦手でした。。。）、少なくとも私は上記のように先輩方にすごくお世話になったので、自分と同じように不安を抱えている後輩の手助けをしたいと強く思っています！他の内定者も同じように何かしたいと考えている方が多いと思うので、不安がらずに連絡してみることをおすすめします！他の志望者についても、やはり同じように不安を抱えていると思うので、同じように繋がろう！と言ってくれると思います。また、今私の文を読んでいる方は、今後の人生に大きく関わる選択を検討されている時期にいると思います。とても悩む時期だと思います。私もどの省庁に行くか、どんな進路を選ぶかとても悩んでいました。ですが、官庁訪問で環境省の職員さんに「これが正解という選択肢はない。選んだ選択肢を正解にする努力をその後にしていくことが大事だよ。」と言ってもらえて、就職がゴールじゃなくて、入った組織で全てが決まるわけじゃなくて、その先にもずっと自分の人生は続いていて、そこで自分がどんな努力をしていくかもすごく重要だなと、少し開き直るといって、視野を広げることができました。自分のやりたいことや将来について考えつつも、ずっと視野を狭く考え続けるとしんどくなってしまうと思うので、時々息抜きをしたり他の志望者や内定者の方と話したりして、思考をリセットする時間も取ってみると良いのかなと思います。皆さんが納得する進路を選ぶことができるよう、応援しています！！

おわりに

最後まで「内定者の声」を読んでいただきありがとうございました。12名の内定者がどのように就活と向き合ってきたのかを通して、興味を持ってお読み下さった皆様の就活の助けとなることを願っております。

世界中の気候変動ニュースが連日報道されるなか、効果的な環境政策が求められています。このような時代において、環境省の役割はさらに大きく、やりがいを感じる経験をすることができると思います。この冊子が環境省の業務内容や政策について興味、関心を持つこととなる一助となりましたら大変うれしく思います。

また、環境省の情報はホームページ、SNS等で多く発信しています。ご興味、ご関心がありましたらご覧ください。

環境省ホームページ

<https://www.env.go.jp/>

環境省 YouTube

<https://www.youtube.com/user/kankyosho>

環境省 X (旧Twitter)

https://twitter.com/Kankyo_Jpn/

環境省 Facebook

<https://www.facebook.com/KankyoJpn.gov>

環境省 Instagram

<https://www.instagram.com/coolchoice100/>

注意

- ・本冊子記載事項、内定者私見に基づくものであり、環境省意向を反映させたものではありません。
- ・本冊子に使用しました写真素材およびイラスト、内定者が撮影した写真ならびに各種フリー素材を使用しました。

作成者 令和6年度環境省内定者